

ReadNotify によるセキュリティーソリューションのご提案

市場ニーズ

個人情報保護法、日本版 SOX 法、新会社法等の施行により、コンプライアンス準拠の証明、問題発生時の迅速的確な対応が益々求められています。一方企業は日常業務として委託先企業、顧客、イントラネット外にいる従業員に情報を提供しており、企業にはその監督責任があります。

また、企業は悪意ある第三者から情報漏洩を守るだけでなく、社内、委託先からの過失による情報漏洩や意図的な情報漏洩への対策も求められています。万一漏洩事故が発生したら漏洩経路の迅速な特定が必要です。その為に種々のログ管理ツールが導入されています。しかしこの種のツールはイントラネットだけのメールや文書の追跡では片手落ちです。インターネットを通じて社外に流出した情報、更に、オフライン媒体に無断でコピーした情報の流通も同時に追跡できなければなりません。

これらのメールや文書、ファイルのイントラネット、インターネットでの開封や閲覧の情報をリアルタイムに収集でき、それを解析システムで処理し、危険度の高いログ情報を抽出して管理者にリアルタイムで通報できるシステムが必要です。

また、従業員や業務委託先等に自社所有の PC を貸与している場合、企業はこの様な PC から発生する情報漏洩のリスクにも対処する必要があります。従って、管理下の PC から発信するメールや作成、閲覧する文書全てに対してその流通ログを収集し、分析し、異常を発見した時は自動的に迅速に管理者に通報するシステムが必要です。

ソリューションのご提案

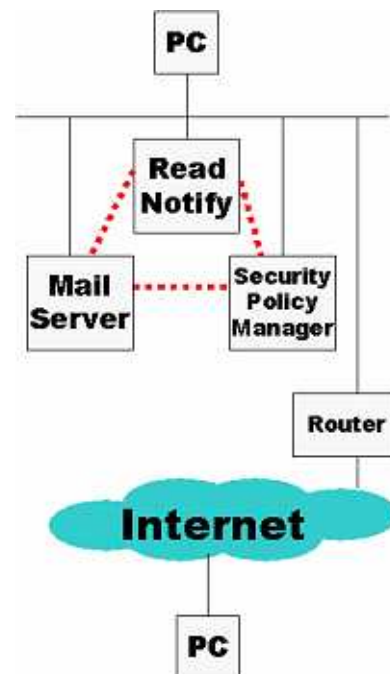
ReadNotify を使えば上に述べたセキュリティーソリューションが可能です。即ち、

1. 社内の PC から社内外に発信したメール、文書、オフライン媒体(CD, メモリースティック)にコピーした資料等の流通履歴(何時、何処で、誰が、どのメールや文書を、どの様に読んだか)をほぼリアルタイムで集中管理できます。
2. 会社が貸与し、社外で使っている PC から発信したメール及び作成した文書全ての流通をほぼリアルタイムで集中管理します。
3. これにより収集したログデータを安全基準に従って評価し、危険度が高いと認識した事象の報告を即時報告します。これにより以下の様な適切な対処が可能です。
 - i 漏洩源と経路を特定し、原因を究明し、他の漏洩リスクに対処する。
 - ii 情報の漏洩先を特定し、漏洩した情報の回収や抹消、補償先を特定する。
 - iii 漏洩事件の公表に際し具体的な対応策を明示し、イメージ損失を最少に留める。他
4. 社内情報、文書の外部提出に関する閲覧記録報告書が自動作成できます。
5. 既存のセキュリティーシステムとの柔軟な統合が可能です。

6. 管理工数の削減、管理レベルの向上、監査担当者の負荷軽減、セキュリティーレベルの向上が可能です。

システムのご説明

1. インtranetシステム内に ReadNotify サーバを設置し、メールサーバから発信するメールは全て ReadNotify 経由で送信します。
2. 社内で作成する文書、資料をフォルダに保存する時、ReadNotify を使って自動処理します。
2. 従業者や委託先業者に貸与する PC に ReadNotify の「見えないプラグイン」をインストールします。
 - i このプラグインは以下の機能を提供します；
 - PC で作成し送信したメールを全て ReadNotify 経由で自動的に送信。これには PC で臨時に取得した Web メールのもメールアドレスから発信するメールも含む。
 - PC で作成した文書(MS Office文書、OLE、pdfファイル等)全てに自動的に追跡因子を埋め込む。
 - これらは全て PC ユーザには見えない形で機能する。
 - ii これにより PC から発信したメール、その添付文書、オフラインでコピーし別のPCで閲覧した文書全ての履歴情報を ReadNotify サーバに集中送信。
3. セキュリティーポリシーサーバがある場合、メールサーバはセキュリティーポリシーサーバの指示に従い、メール宛先、メール本文、添付文書内の文言をサーチし、必要と判断した場合、メールを ReadNotify 経由で送信します。
4. ReadNotify サーバはメールの開封、文書の閲覧の履歴情報を独自のデータベースに蓄積し、セキュリティーポリシーサーバ等の判断基準に従い独自の報告書作成、警告メッセージ送信を行います。例えば、
 - i 開封者、閲覧者の種類毎に色分けで表示する。例えば社内は緑、社外の送信先はオレンジ、送信先以外の社外は赤で表示。
 - ii 警告すべき開封、閲覧(多数の社内、社外の、Web サービスで公開された、等)は点滅表示、等。
 - iii 警告すべき記録だけをレポートの先頭に表示する。
 - iv 警告すべき記録は重要度に応じて管理者にメールで報告する。
 - v 送信者毎、送信文書毎に、開封、閲覧の履歴を時間が新 > 旧の順に表で示す。
 - vi メールや文書の重要度毎に色分けで表示する。
5. 蓄積したログ情報を他のログ解析システムに渡し、別途報告書を作成します。



ReadNotify 社について

ReadNotify 社はメール、文書追跡に関するリーディング企業です。ReadNotify の機能は現在ASPとしても提供されています。詳しくは <http://www.readnotify.com> をご参照ください。

注:これらの機能の一部は別途開発が必要です。

参考:金融庁策定の「金融分野における個人情報の保護に関するガイドライン」

以上